

こども心身だより



第 153 号-平成 30 年 11 月発行

巻頭言

先日、朝のニュースを見ていると、ほとんどの幼児が嫌がる歯磨きを楽しんでできるようになるという、スマホを使った機器（昨今はこのような場合アイテムという言葉を使う！）が「さも良いことのように」紹介されていました。

少し前に、スマホに子守のアプリが登場したと知り、もはや堕ちるところまで落ちたと、現代の驚異的な科学の進歩が悪しき商業主義に利用される状況に驚いていると、幼児の歯磨きをスマホで、という今回のニュースです。もっとも多くの方が、物事の本質を考え、この酷い状況に踊らされなければ問題は無いのですが、残念ながら“一流”と勘違いされている大手マスメディア自体が率先して採り上げるので、それに影響される消費者（ココでは若い親）が多くなるのです。

本欄でも何度か述べてきましたが、現代のスマホやネットゲームの弊害は、利便性よりも格段に大きな弊害をあらゆる世代に出現させ、特に子どもの問題に関わる現場からは、大げさでなく「亡国の機器（危機）」と叫びたい状況です。何より若者ほどこれらに親和性が高く、今やそれを幼児期にまで広げる商魂たくましい企業が成長産業になる社会になりました。幼児期からこれらに「まみれて」育った者が成人になった未来は「地獄」と、私のような老人は考えざるをえないのです。私は今、このような地獄を見ないで「この世からおさらば」できる年齢になった幸せを感じ、死後は本物の「地獄」から、移り行く「現世の地獄をじっくりと見てやろう！」と思っています。「僕が活着している時、常に警鐘を鳴らし続けたではないか！」と叫びながら……

大学はかなり前から学生に「お知らせ」をスマホで行いますから、掲示板さえ読めない大学生が出現しているのに気づいたのが5年ばかり前です。今では高校もお知らせをスマホで行う所が増加していますから、これはやがて小学校にまで広がるでしょう。情報の中で自分に必要なものを取捨選択し、同時に自分の属する集団での一般情報も同時に見るという作業は無くなり、「あなた様に必要な情報」が向こうから直接もたらされます。こうして、「only one(和製英語)」だとか「個性が大切」「自分らしく」と、未熟な子どもに義務教育が教え続けてきた成果(!?)に、「あなた様への情報」が個別に手元に来れば、彼らは自分中心の社会(集団)に住み、ますます他人のことを考える機会が無くなります。このような社会が自閉スペクトラム症を増加させる一因になっているというのが私の異見です。

そのうえ、小学校まで授業にタブレットを使う時代ですから、辞書を引けない生徒や学生はもちろん、「学問に王道なし」「ローマは一日にして成らず」「千里の道も一歩から」といった地道な努力を大切にする諺も死語になる日も近いのでは、と考えざるをえません。やがて「何もしない(努力しない)」「怠惰な」超新人類に溢れ、それを助けるのがロボットになると、それはバラ

色の世界でなく地獄になります。半世紀前の昭和43年(1968)に公開され、今や映画の古典として重要な位置を占める『2001年宇宙への旅』で描かれた「コンピュータが人間に反乱を起こす」現象が現実になりつつあるのです。

実際に問題を抱えた親子を毎日診ていると、今、社会で声高に叫ばれている「少子化」で人口が減少する不安よりも、質の変化によるものがより深刻になるのでは？と危惧しています。

人類という種が最初にこの地上に出現した時からの歴史は、生きる「苦しみ」を少しでも「楽」にするための「努力」だったと言えますが、進歩し過ぎた現代は地獄に落ちる一步手前になったのでは！血のにじむような先人の努力から得た果実を、多くの平凡な現代人が無邪気に享受しているのが「地獄絵図」にならないように祈るばかりです。(富田)

定例学術研究会

今年の定例学術研究会は「体から診る心」を年間テーマにして開催してきました。今年を残すところ後1回となりました。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

〔第359回のご案内〕

日時；平成30年11月9日(金)19:00～

会場；エルおおさか 6階606号室

講師；木野 稔 先生(中野こども病院理事長・小児科医)

内容；小児科プライマリケアにおける夜尿症診療

〔参加資格〕子どもに関わる専門職の方、大学生・大学院生(守秘義務を有する方)

〔参加費用〕通年参加(12,000円/年)を基本としますが、会場定員に余裕がある場合は単回参加(3,000円/回)も受け付けます。必ず事前にお申し込みの上ご参加下さい。

〔参加申込〕参加をご希望の方は、必ず事前にお申し込みをお願いいたします。

【第357回印象記】

9月は近畿大学医学部内科学教室心療内科部門/教授で心療内科医としてご活躍の小山敦子先生に「免疫機能と心の関係～心身症から緩和ケアまで～」という講演をいただきました。心身症とはその発症や経過に於いて心理的因子が密接に関与し、器質的・機能的障害の認められる身体疾患と定義されます。あくまでも身体疾患ではありますが、その診断と治療には、精神状態と身体症状が互いに影響を及ぼし合う“心身相関”への気付きが必要です。代表的な疾患として心因性発熱を取り上げられましたが、臨床上は同じ発熱でも、心因性のものは炎症性サイトカインなどを介さず、心的ストレスが直接視床下部に作用して発熱に至る身体反応を惹起しています。従って、炎症物質を阻害する解熱剤は効果がありません。他に感染等の炎症性身体基礎疾患が無いので身体的には重篤感はありませんが、治療に難渋し遷延することがしばしばあります。発症機序を理解した上で、先行するストレス状況やストレス対処行動に注目し、身体上に表現された「こころの本音・SOS」に対応する必要があります。ストレスは悪いばかりでなく、人間の成長を促

し、生活に張りを与えるエッセンスでもあります。同じストレスでも捉え方次第で快にも不快にもなる、有益なストレスの見極め方、上手なストレス適応力（活用術）を養うことも大切だと教わりました。

【第 358 回印象記】

10 月は、えんどうこどもの心診療所・えんどうこどもの発達相談所/所長の児童青年精神科医、遠藤健次先生に「地域の児童精神科に求められること」のお話をさせていただきました。

遠藤先生とは、数年前まで私たちの研究所で一緒に仕事をさせていただいていましたが、その後、大阪市立総合医療センターで児童青年精神科研修を積まれ、今年の 5 月に開業されました。御自身でも話されましたが、先生の医療に対する姿勢には先生の個性的な経歴が大きく反映されていると感じます。工学部出身で電機系統の開発の仕事をしてきた時に、自分の子どもの通っていた学童の活動に熱心に関われ、子育て支援に興味を持たれて医学の道に転向されました。誰にでもできるワザでないのですが、先生のフットワークの軽さ、熱意、医学を通して親子を支援していくという発想は実に個性的です。現在も医師としての先生の意欲的・積極的な姿勢にそのパワフルぶりは一緒に働いていた時同様健在で、更に先を見据えて邁進中の心意気を感じました。総合医療センターでの壮絶な摂食障害の子どもたちへの治療を経験された後、現在は「早い」「近い」「安い」を売りにした、地域に密着した気軽な児童青年精神科医を目指しておられます。支援を必要とする親子が求めているのは、先生のような本当に子育てを知っている精神科医なのだろうと思います。 (Y. Y)

用語解説 「社会的ひきこもり」
ひきこもりとは、学校や仕事に行けず家に籠り、家族以外の人とはほとんど交流がない状態を指しています。厚生労働省の定義ではこの状態が 6 ヶ月以上続いた場合、ひきこもりと判断します。ここには不登校が長期化したものや、仕事を失う、退職した後から始まったもの、精神疾患が背景にあり社会に出られなくなったものなど多様な事情が含まれ、年齢幅も 10 代〜高齢者までと広がっています。また高齢になるほど経済的に困窮する問題もあり、対策が必要とされています。家族支援では全国ひきこもり家族会連合会、精神保健センターなどの医療機関、再就労を含む本人への支援は民間の就労移行支援事業やハローワークなどが窓口としてあります。

第 11 回こども心身セミナー

来年のこども心身セミナーは客員講師に岡田俊先生（名古屋大学医学部附属病院 親と子どもの心療科准教授）をお迎えし、下記のような内容で検討中です。

- 1) 発達障碍の精神医学—併存症とその表現をめぐって
- 2) 発達障碍のある子どもの育ちと育みを支えること

毎年好評の客員講師を囲む会、セミナーのテーマに沿った映画上映、自律訓練法の体験、笑

いヨガなどは引き続き実施予定です。

会場は例年と同じく、交通の便が良く、大阪湾の夜景が美しい研修専門の都会派ホテルです。ホテルが満室になる可能性がありますので、是非、お早目にお申し込み願います。

【参加要項】

対象；医療関係者・教育関係者・心理関係者と専門の大学院生等

日時；平成31年5月25日（土）～26日（日）1泊2日

会場；ホテルフクラシア大阪ベイ（大阪南港）

（旧ホテルコスモスクエア国際交流センター）

新大阪から約30分（大阪市営地下鉄とサークルバス利用）

関西国際空港から約50分（リムジンバス利用）

費用；35,000円／1泊2食付

（当研究会会員及び過去のセミナー参加者は32,000円）

原則としてツインルームでの受付となります。シングルルームは数に限りがありますので、お早目にお申し込みください。（シングルルームの場合、5,000円追加となります）。

※日本小児科学会、日本心身医学会の認定医点数と日本小児科医会「子どもの心相談医」の研修更新点数が認定されます（予定）。

案内チラシ（申込書付）をご希望の方は、こども心身医療研究所までお問合せください。

詳細はホームページでもご案内いたします。

ご寄付をいただいた方々（平成30年8月～9月）

中村淳子様 岡田正幸様 細川禎子様 他 若干名様

私たち社団法人では多くの方々のご理解やご協力に支えられて活動を続けております。

これからもよろしく願い申し上げます。

ご寄付振込先◆郵便振替 000930-6-98381

◆銀行振込 三井住友銀行 大阪本店営業部 普通 3180573
りそな銀行 堂島支店 普通 2310713

掲載内容についてのお問合せは

一般社団法人 大阪総合医学・教育研究会 こども心身医療研究所
〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-4-6 Tel.06-6445-8701 Fax.06-6445-7341